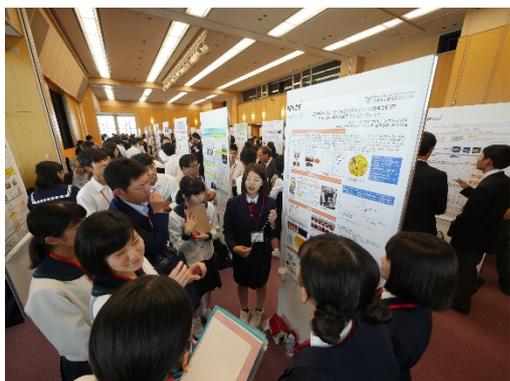


第17回 高校化学グランドコンテスト 協賛趣意書

高校化学グランドコンテストの様子

ポスター発表



口頭発表



“グラコン”に参加した高校生たちの奮闘記「高校生・化学宣言」が毎年、遊タイム出版より刊行されています。



謹啓

皆様におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびは「第17回高校化学グランドコンテスト」の開催に伴い、皆様からのご支援を賜りたいと存じます。今年度は、最終選考会を2021年10月23日（土）・24日（日）の2日間にわたりオンラインにて開催します。

本コンテストの目的は、高校生等の科学研究活動を支援することで、科学的創造力の涵養と科学教育のレベルアップを図り、また、最終選考会として成果を発表し交流する場を提供することによって、将来の科学技術の発展を担う人材を育成することにあります。好奇心にあふれ、ひたむきに研究する生徒の成長に貢献することは我々の重要な社会責務と考え、17年にわたり複数の公立大学と読売新聞社による共同主催として開催してきました。また、生徒がグローバルに活躍する能力を涵養するため、卓越した能力をもつ海外高校生を招へいすることで国際大会としても位置付けています。優秀な国内外の生徒が研究を仲立ちとして相互理解を深め交流する機会を持つことで、世界レベルで切磋琢磨するとともに互いのグローバル志向を強め世界に飛躍する科学人材として育つことを支援しています。

さて、本コンテストの課題発表件数は、2004年初回は21校・33件でしたが2019年度に開催した第16回は62校・130件になり、急速に規模を拡大しています。次頁以降にあるとおり、今年度の最終選考会は初めてオンライン開催する運びとなりましたが、これまで同様に不自由なく全国の高校生等が研究発表や交流が行える場を提供するためには、相当の運営費用が必要となってきます。本来であれば、コンテスト運営費用は主催団体が拠出すべきですが、発表件数の増加もあり難しいのが現状です。そのため、大学及び科学に深い関わりのある多くの企業・団体ならびに個人の皆様からの、資金面でのご支援をお願いしています。前回までのコンテストにおいても、多くの皆様の温かいご支援によって、発表を希望する生徒に継続してその機会を提供することができました。

2020年度の開催は新型コロナウイルス感染症の影響により延期を余儀なくされ、多くの高校から開催延期を残念に思う声が届きました。依然予断を許さない状況ではございますが、高校生等がオンライン会場に集結し、研究発表の経験を積み相互交流できる場を提供できるよう、実行委員会一同準備を進めております。景気の先行きが不透明な昨今、このようなお願いを申し上げるのは誠に心苦しいことではありますが、本コンテストの趣意ならびに諸事情をご賢察いただき、ご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

謹白

2021年6月吉日
第17回 高校化学グランドコンテスト実行委員会
委員長 坪田 誠

「高校化学グランドコンテスト」について

1 目的

高校生及び工業高等専門学校生（3年生以下）の科学に対する興味・関心を一層喚起するために、「人材育成」「国際交流」の2つの柱を目的としています。

○人材育成

本プログラムは、高校等における化学クラブの自由課題や化学課程の課題研究等で行っている学習研究活動を支援しています。高校生等自らが自主的な研究活動を楽しみながら科学的創造力を涵養することで、将来、科学分野で活躍できる人材の育成を目指します。（1）自らの習熟度に応じて「高校生自らが科学における創造の重要性と楽しさを体験し創造力を培う」という点、（2）一線の科学者である大学教育研究者が、高校の教育現場の教育者と直接タイアップして、高校生等の自主的な学ぶ活動を持続的に支援する点に大きな特徴があります。プログラムの最終段階には最終選考会を開催し、高校生等に「発表することの大切さ」を体験してもらうため、「着眼点のユニークさ」「習熟度」「自主的研究の成果」を発表する公の場（インターネット配信を含む）を提供しています。大学教育研究者や同世代の化学を学ぶ高校生等と直接意見交換を行うことで、科学に対する興味関心をより一層喚起するとともに、発表能力の向上を目指します。

○国際交流

第10回コンテスト以降、海外の優秀な高校生を招へいし国際大会として実施しています。発表言語として英語を推奨し、選考会審査委員を務める大学教育研究者たちとの意見交換も英語で行われます。発表に加えて、参加者交流会を催すことで、高校生等が直接交流できる機会を提供します。次世代を担う高校生たちが、化学を通じて他国の高校生と英語で直接語り合い、交流の輪を育むことは、本人たちにとってよい刺激となり、教育上も大きな効果が得られるものと考えています。

また、コンテスト優秀発表チームを海外サイエンスフェアへ参加推薦することで、発表能力のさらなる向上と国際感覚の涵養を促進しています。第16回コンテストの優秀発表2チームは、台湾で行われた国際サイエンスフェアに参加し、2部門で各々一等賞、二等賞を受賞し、本コンテストの研究発表レベルが世界レベルに匹敵する可能性を示す大きな結果となりました。

2 第17回高校化学グランドコンテストの概要（2021年6月現在）

2-1 概要

- ① 本事業では、大学教員による研究サポート、エントリー、一次審査など複数の過程を経た後、最終段階として、エントリーした高校生による研究成果の発表の場として、最終選考会を開催する。最終選考会は、化学分野において第一線で活躍する大阪市立大学、横浜市立大学及び他後援大学の教育研究者、協賛団体の協力の下で行い、高校生との直接の議論も行いながら実施する。発表者へは、特別2賞に文部科学大臣賞と大阪市長賞、優秀賞を各主催者賞とし、金賞他いくつかの 카테고리にもとづく多くの賞を準備する。
- ② 大阪市立大学、横浜市立大学及び読売新聞社の共同主催で実施し、各主催者より選出された実行委員からなる高校化学グランドコンテスト実行委員会が、関連研究者の協力を得て企画・運営を行う。
- ③ 主催新聞社は、事前に本教育事業の開催を社告にて自社新聞（朝刊）に掲載し、当日取材と特

集記事（1または2面、10段記事／面、下5段スポンサー広告）を後日掲載する。

- ④ 他新聞社など報道関係にも、最終選考会当日の取材は可能とする。ただし、ビデオ録画、放映などについては、主催側との事前協議の対象とする。著作権、知的財産所有権は、前例・慣行により主催者がもつ。
- ⑤ 後援は、文部科学省はじめ、大阪府、大阪市などの教育委員会、関連学会、学術団体等をお願いする。
- ⑥ 最終選考会の全内容は、インターネットを通じてリアルタイムで配信し、高校等におけるe-Learningの一環としても活用し、各家庭でも視聴できるようにする。インターネット配信は、必要に応じて企業のプラットフォームを活用し、主催側が責任をもって行う。
- ⑦ 最終選考会の内容などは、教育機関をはじめ希望する個人または法人が鑑賞できるように、動画サイトに保存する。録画や編集、制作などは、高校化学グランドコンテスト実行委員会が責任を持って行う。
- ⑧ 最終選考会の開催については、開催実施要項が確定次第、主催側、協賛側、後援側、その他スポンサー側のホームページに掲載する。
- ⑨ 最終選考会の終了後、協賛・後援団体に対して決算を含む開催報告書として情報を開示する。
- ⑩ 参加申し込み方法：一般参加申し込みは、主催者において実施する。ただし一部を招待とし、高校などの課外活動の一環としての参加も可能とする。
- ⑪ 参加費：無料
- ⑫ 本事業は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点よりオンライン開催とする。また、感染状況によっては内容を変更して実施する場合がある。

2-2 開催スケジュールについて

6月下旬～	企画の公表・大学教員による研究サポート受付	開始
7月中旬～	エントリー募集開始	
8月27日	研究サポート受付・エントリー受付	締切
9月1日	研究要旨提出	締切
9月上旬～	一次審査	
9月下旬	一次審査結果通知	
10月23日・24日	最終選考会開催	

2-3 最終選考会について（予定）

- 開催日 2021年10月23日（土）・24日（日）
- 開催形式 オンライン開催
- プログラム 10月23日（土）ポスター発表
10月24日（日）口頭発表、海外招聘発表、特別講演、表彰式
- 使用言語 英語を推奨
- 要旨集 講演要旨集はWeb版としてPDF形式にて発行
- アーカイブ 2日目の様子はインターネットによりリアルタイム配信を行うとともに、動画サイトに保存し、教育機関をはじめ希望する個人または法人がインターネットを通じて視聴可能とする。

2-4 主催団体

大阪市立大学、横浜市立大学、読売新聞社

2-5 実行委員会

委員長	坪田	誠	大阪市立大学大学院理学研究科長
副委員長	中沢	浩	大阪市立大学大学院理学研究科特任教授
事務局長	森内	敏之	大阪市立大学大学院理学研究科教授
監事	長谷川	敏子	読売新聞大阪本社編集局生活教育部長
監事	篠崎	一英	横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科教授
委員	小嵯	正敏	大阪市立大学大学院理学研究科教授

2-6 情報発信

主催新聞社は、本プログラムに関する情報を社告にて自社新聞（朝刊）に掲載します。また、高校化学グラウンドコンテストWebサイトをとおして順次情報発信を行います。

3 過去開催状況（直近5年分）

開催年	開催地	発表件数	参加校数	参加者数
2016年（第13回）	大阪市立大学	71	45	599
2017年（第14回）	名古屋市立大学	100	66	841
2018年（第15回）	名古屋市立大学	124	76	1009
2019年（第16回）	大阪市立大学	130	62	879
2020年（第17回）	開催延期			

※参考（第16回）

●**後援団体** 文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、各教育委員会（大阪市、名古屋市、横浜市、北海道、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、大阪府、奈良県、和歌山県、島根県、鳥取県、岡山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）、公益財団法人永井科学技術財団、公益財団法人日本科学技術振興財団、大阪府立大学、首都大学東京（現、東京都立大学）、お茶の水女子大学、特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪、特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム、読売テレビ、高等学校文化連盟全国自然科学専門部

●**協賛団体** パナソニック株式会社、第一三共株式会社、長瀬産業株式会社、ナガセケムテックス株式会社、株式会社林原、株式会社遊タイム出版、シュプリンガー・ネイチャー、Royal Society of Chemistry、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本化学工業協会、一般社団法人近畿化学協会、株式会社化学同人、株式会社東京化学同人、シグマアルドリッチジャパン合同会社、日本ペイントホールディングス株式会社、HPC システムズ株式会社、日本イーライリリー株式会社、サカタイムクス株式会社、日本曹達株式会社、株式会社柴尾商店、大研科学産業株式会社、八洲薬品株式会社、東京化成販売株式会社、ナカライテスク株式会社、文珠システム株式会社、株式会社リガク、

住友ベークライト株式会社、株式会社新興出版社啓林館、KHネオケム株式会社、JSR株式会社、住友化学株式会社、株式会社Vソリューション、三井化学株式会社、株式会社ダイセル、株式会社日本触媒、近畿エア・ウォーター株式会社、有限会社ヒット

4 支援を必要とする理由

本コンテストは、未来の日本経済の成長を担う全国の意欲的な高校生に加え、海外から優秀な高校生を招へいし、お互いに交流を深めて切磋琢磨する機会を提供することで、これからの化学産業を背負う学際的な高校生の育成の重要性を日本全国へ発信することも目的としています。

コンテストの開催に必要な経費は、下記のとおりおよそ690万円です。主催団体である大阪市立大学、横浜市立大学が計150万円を負担し、前年度からの繰越金と合わせて今年度は約390万円の財源を用意することができました。

本コンテストにあたっては、多数の高校生の参加が予測されることから、運営体制に万全を期する必要があります。そのため、大規模なオンラインイベント開催のノウハウをもつ者に一部業務を委託し、高校生等の発表および意見交換などのコミュニケーションが円滑に進むことを目指しています。皆様からの協賛金（目標額300万円）は、高校生等の参加に必要なオンライン運営経費を中心に、コンテストの趣旨にのっとった運営を滞りなく有意義に進めるための財源として活用させていただきます。

■総事業予算（概算）

総予算 6,900,000円

（内訳）	コンテスト準備費	2,900,000円
	コンテスト運営費	4,000,000円

5 協賛金受付単位

一口 5万円

6 問い合わせ先（事務局）

〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学社会連携課内
第17回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局
TEL：06-6605-3504 / FAX：06-6605-3505 / E-mail：staff@gracon.jp
高校化学グランドコンテストWebサイト：<http://www.gracon.jp>